

はじめに

広島大学附属学校園研究推進委員会では2013（平成25）年度以降、大学の第3期中期計画・中期目標に沿い、社会のグローバル化に対応したカリキュラム開発に取り組み、また大学が「スーパーグローバル大学創生支援事業」に採択されたことと連動して研究を展開させて、研究成果を発表してきた。これまでの研究成果は2012（平成24）年度から2019（平成31）年度にかけて『社会のグローバル化に対応した初等中等カリキュラムの開発』として印刷媒体で刊行していたが、今後は印刷媒体による刊行よりも広島大学学術情報リポジトリのサイト（<https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/>）に登録したオンラインにより公開することによって発信力を高め、研究成果を幅広く応用できるようにと考えている。それにより質の高い教育研究の成果を発信することで本学附属学校園の存在意義をアピールしたいと考えているが、加えて、教育学関連の学会発表や各学校園での研究大会などを利用しながら、本書がより多くの教育関係者との意見交換を行うことによる「学び合い」の場を設けることができるようになるきっかけとなれば幸いである。

さて、広島大学では2023（令和5）年度から始まった第4期中期計画・中期目標において、本学附属学校園については「STEAM教育、ESD（Education for Sustainable Development）の推進等の先導的な実験的カリキュラムの導入の検討及び指導方法を習得するための研修プログラム等の開発を進める」ことと、「国際標準の学力を育成するための先導的な次世代カリキュラムの開発を進める」という新たな目標を設定した。これまでのグローバル人材育成の取組を進展させ、教育をめぐる国際的な動向を踏まえながら、教科・領域・学年を横断したカリキュラムを構想する「越境」型カリキュラムの理論的・実践的模索の継続、学校種を越えた「越境」型カリキュラムの開発と実践に関する研究次世代カリキュラムの実践研究を行い、広島大学附属学校園研究推進委員会の共同研究を踏まえて、「学び続ける主体の育成」の継続的共同研究を進展させたいと考えている。本事業は上記の計画と目標に対応して検討し、それを受けて各学校で実践された研究の成果をとりまとめたものである。

いうまでもなく本学附属学校園の研究成果は報告書に取りまとめて終了するものではなく、報告書でまとめられた内容が地域や国内の学校園全体に応用され、その実践によって絶えず改良され続けることによって、結果として教育内容や方法の改善に少しでも貢献できればと考えている。

末筆になりましたが、多忙な校務や教育研究活動に追われたなかで、働き方改革の取り組みを意識しながらこのような素晴らしい研究成果をまとめられた山元委員長、吉田副委員長、各附属学校園の研究推進委員の先生方の多大なご尽力について心より感謝を申し上げます。

2024（令和6）年3月

広島大学副理事（附属学校担当）

令和5年度広島大学附属学校園研究推進委員会委員 由井義通